

災害関連死防ぐ環境に

宇和島市役所で講座

官民60人対応力磨く



座学では災害関連死を防ぐために必要な知識を学んだ

ら講師を招いた。

理学療法士の荒谷英彦さんは、避難所での生活が長引くと心身の機能が低下し寝たきりにつながるなど、生命に関わるリスクが高まると指摘。避難者に役割をつくるなどして体を動かす環境を整える大切さを強調した。

WSでは参加者が災害用簡易トイレの組み立てのほか、凝固剤やペット用シートを使った液体の処理を体験。避難所では女性用トイレを多めに配置し、照明を取り付けるといった配慮についても理解を深めていた。

(阪和舞)

災害関連死の防止をテーマにした講座が24日、宇和島市役所であり、行政やボランティア団体の約60人が避難所運営の注意点を学ぶ座学や災害時のトイレに関するワークショップ

プ(W S)を通じて避難者の健康を守るための対応力を磨いた。防災教育などに取り組むN P O法人宇和島N P Oセンターが開き、災害リハビリテーション連絡協議会か



災害時のトイレで排せつ物を処理する方法を学んだワークショップ